

みらかホールディングス株式会社
2019年度（2020年3月期）
上期決算説明会資料

2019年 11月 11日

※ 本資料では、記載している部分及びEBITDAの数値を除いて、日本基準(J-GAAP)に基づく数値にて開示しております。

※ 本資料では、「親会社株主に帰属する当期純利益」を「当期純利益」と省略する場合があります。

※ 本資料では、数値は原則として表示数値の単位未満で四捨五入しております。

※ 各事業名については以下のとおり省略する場合があります。

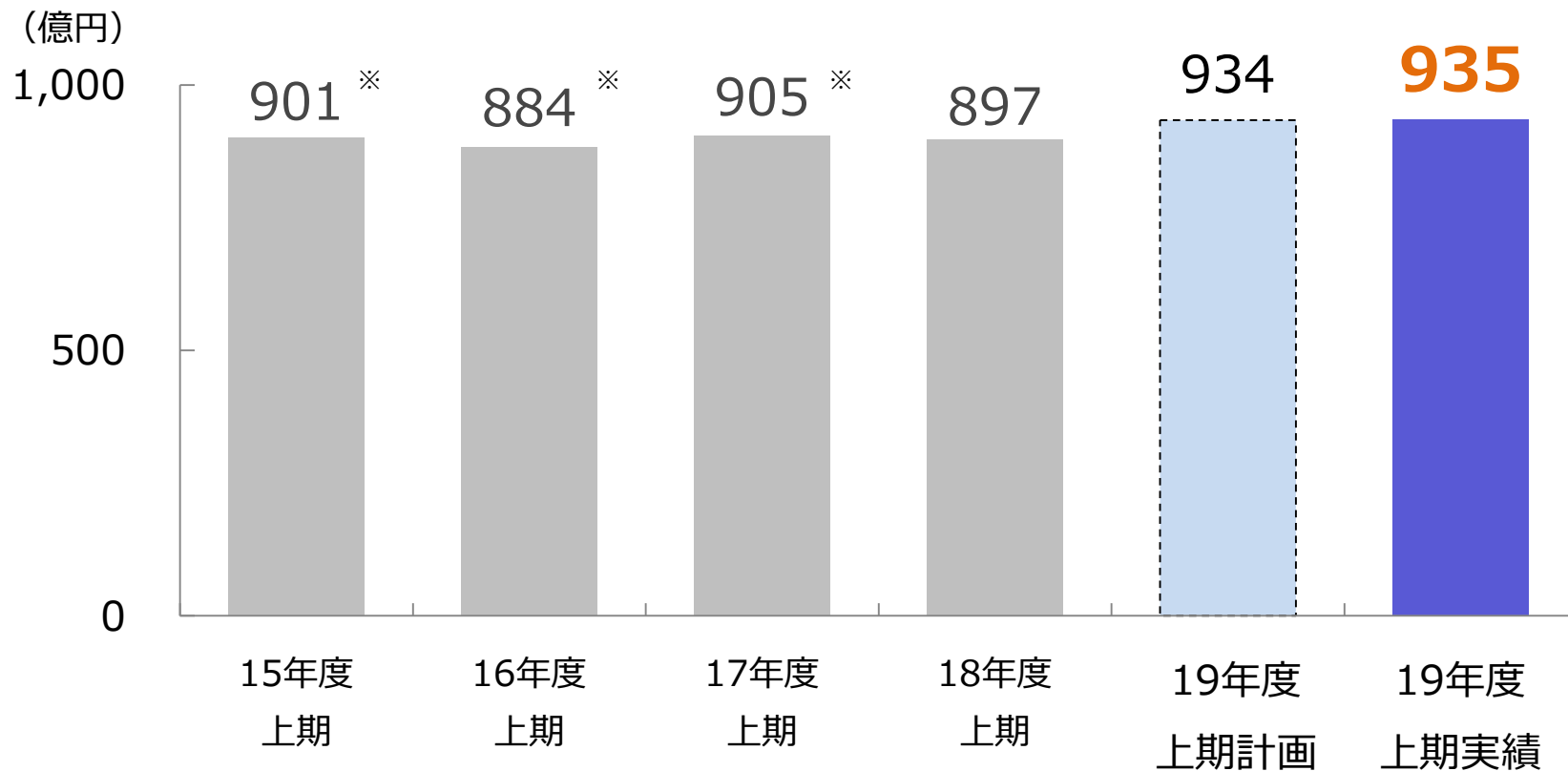
CLT : 受託臨床検査事業 IVD : 臨床検査薬事業
SR : 滅菌関連事業 ENB : 新規育成事業及びその他

※ 本資料で用いている為替レートは以下の通りです。

2018年度上期 : 1USD = 110.28 JPY 1EURO = 129.83 JPY

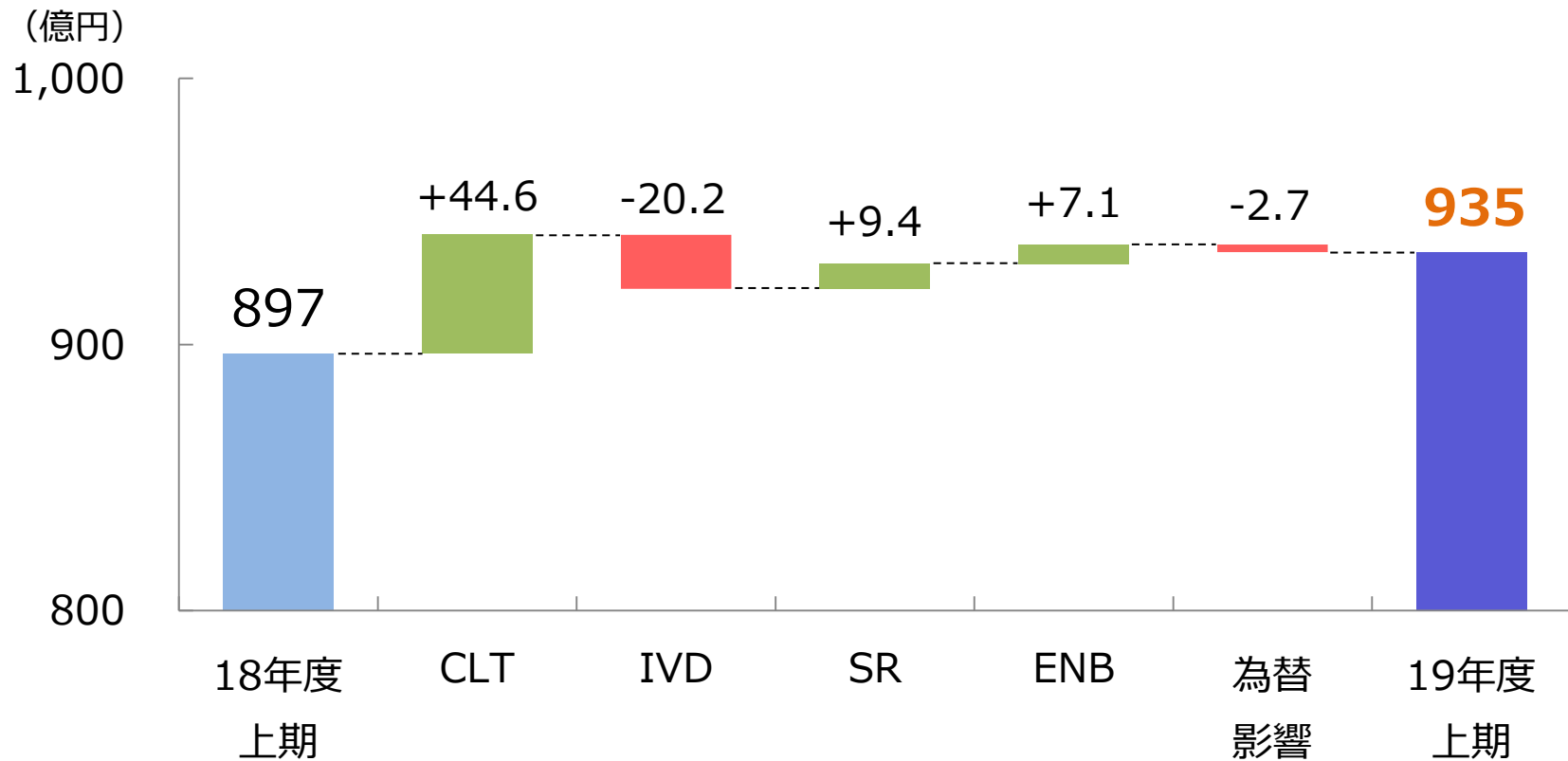
2019年度上期 : 1USD = 108.62 JPY 1EURO = 121.40 JPY

連結売上高 推移

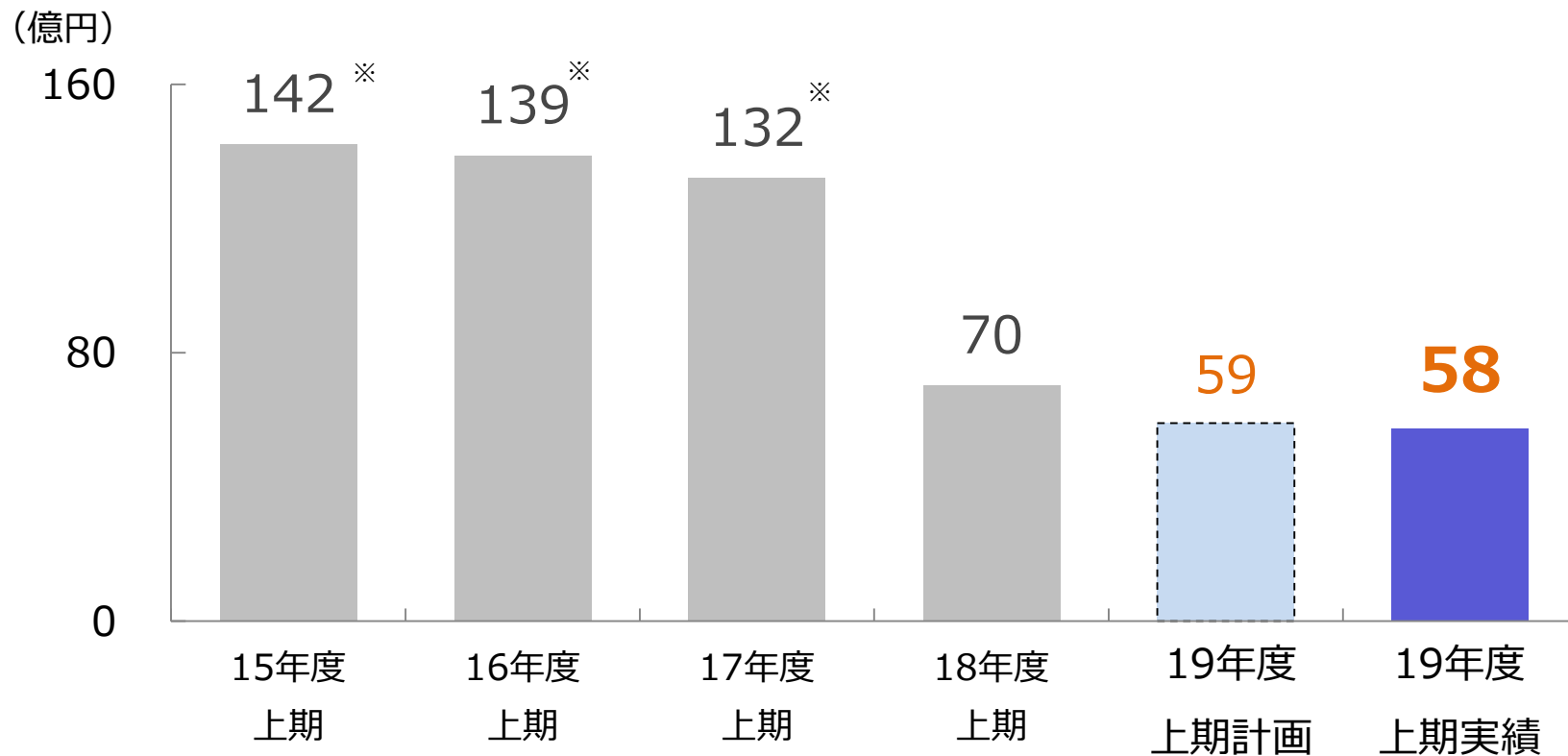


※ 海外CLTを除く

連結売上高 対前年同期比較

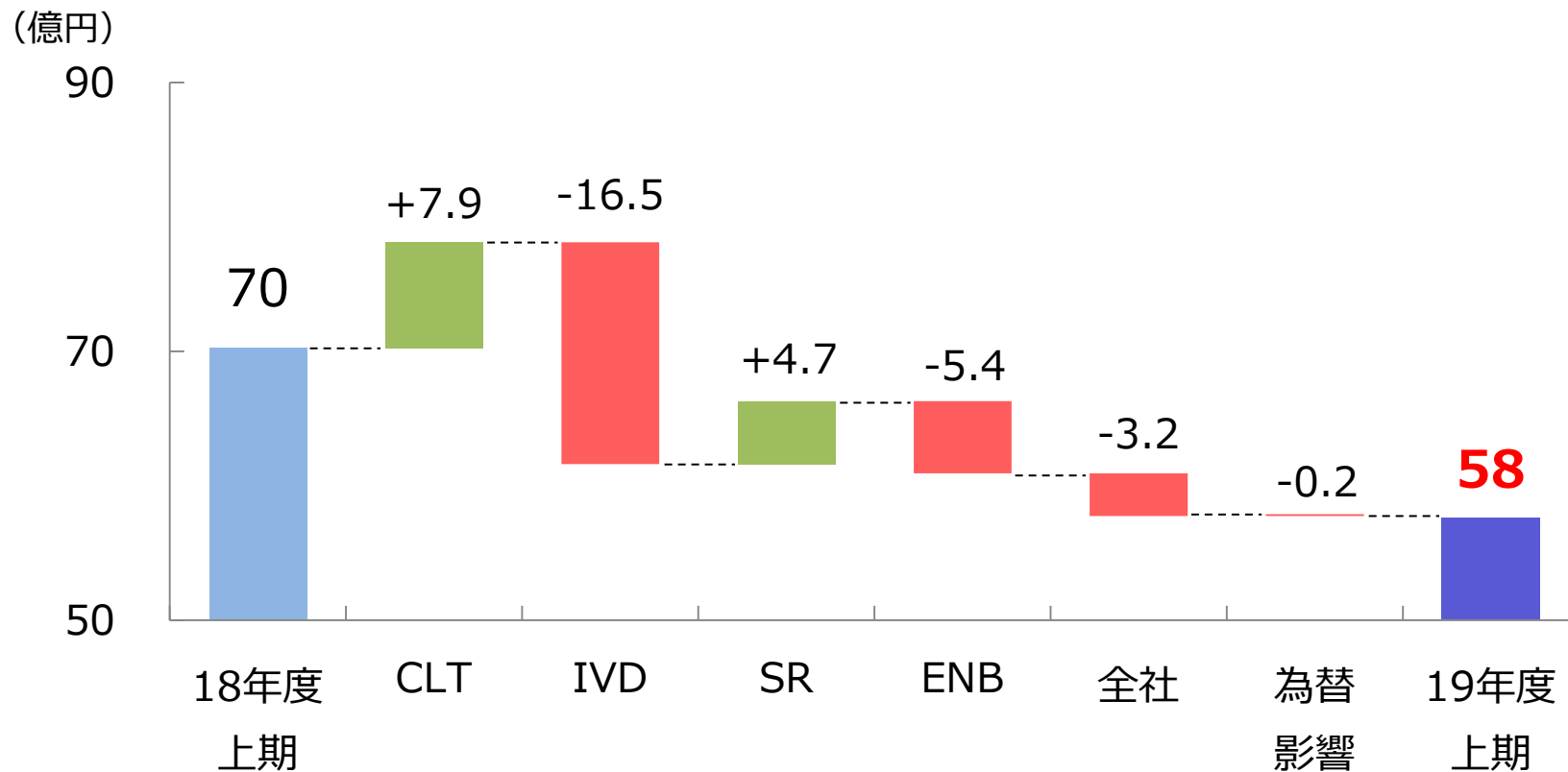


連結営業利益 推移

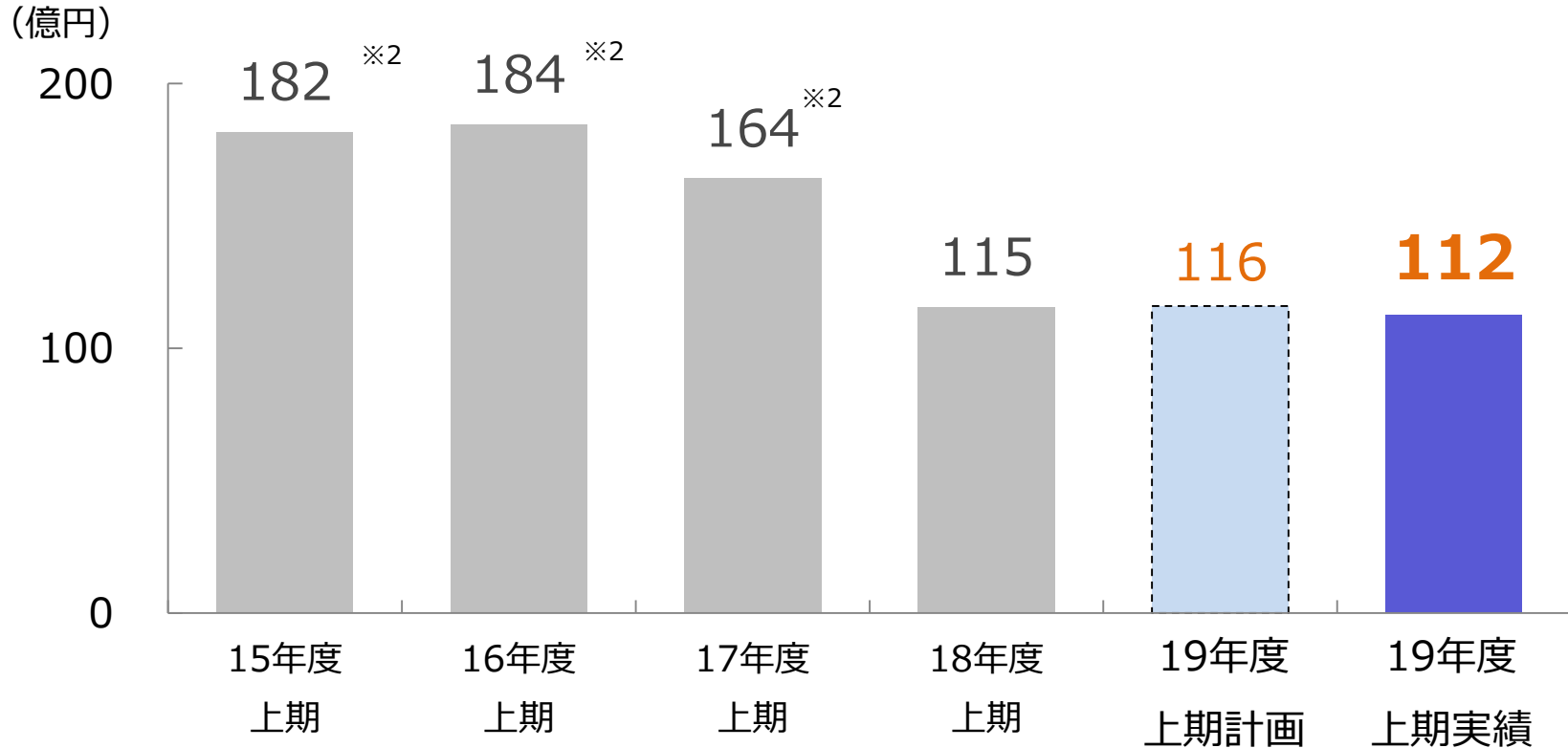


※ 海外CLTを除く

連結営業利益 対前年同期比較



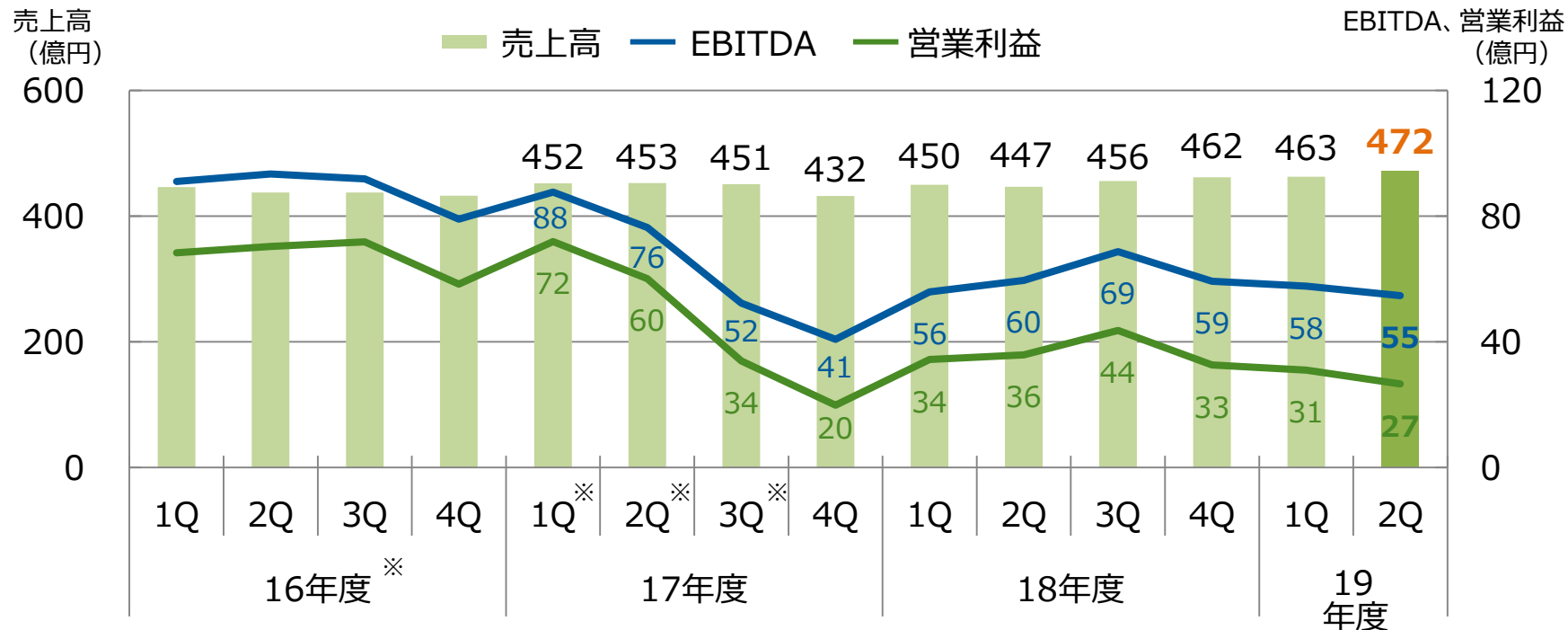
EBITDA^{※1}の推移



※1 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費

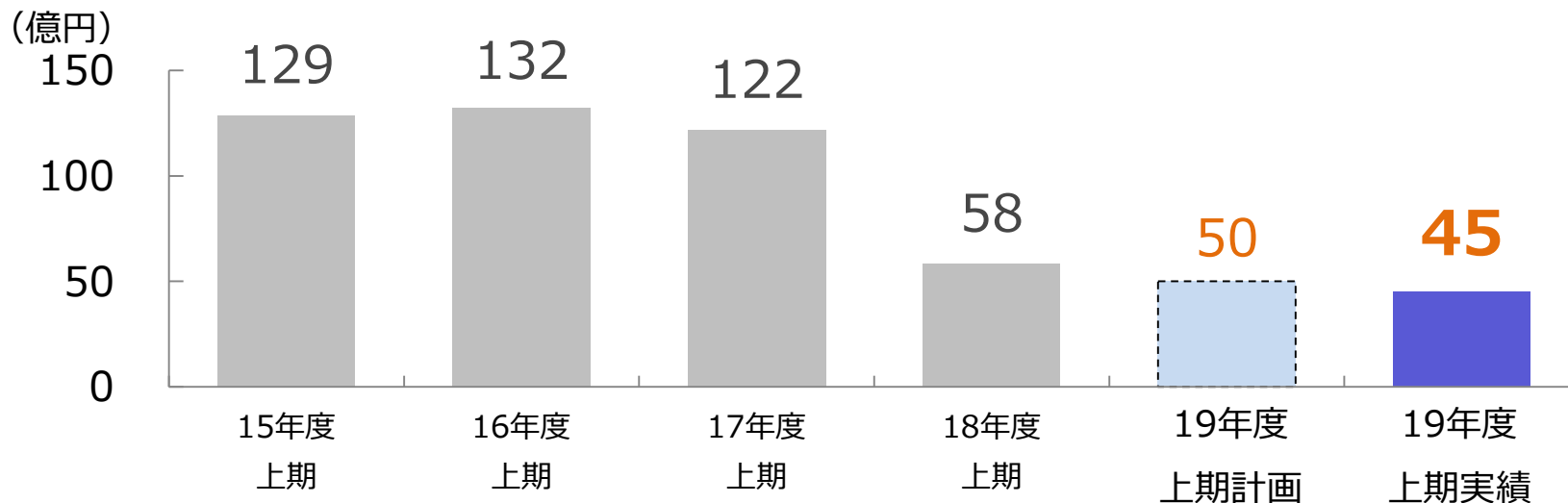
※2 海外CLTを除く

四半期毎の業績推移



※ 海外CLTを除く

連結経常利益 推移



主な営業外損失

【2018年度上期】

- 持分法による投資損失

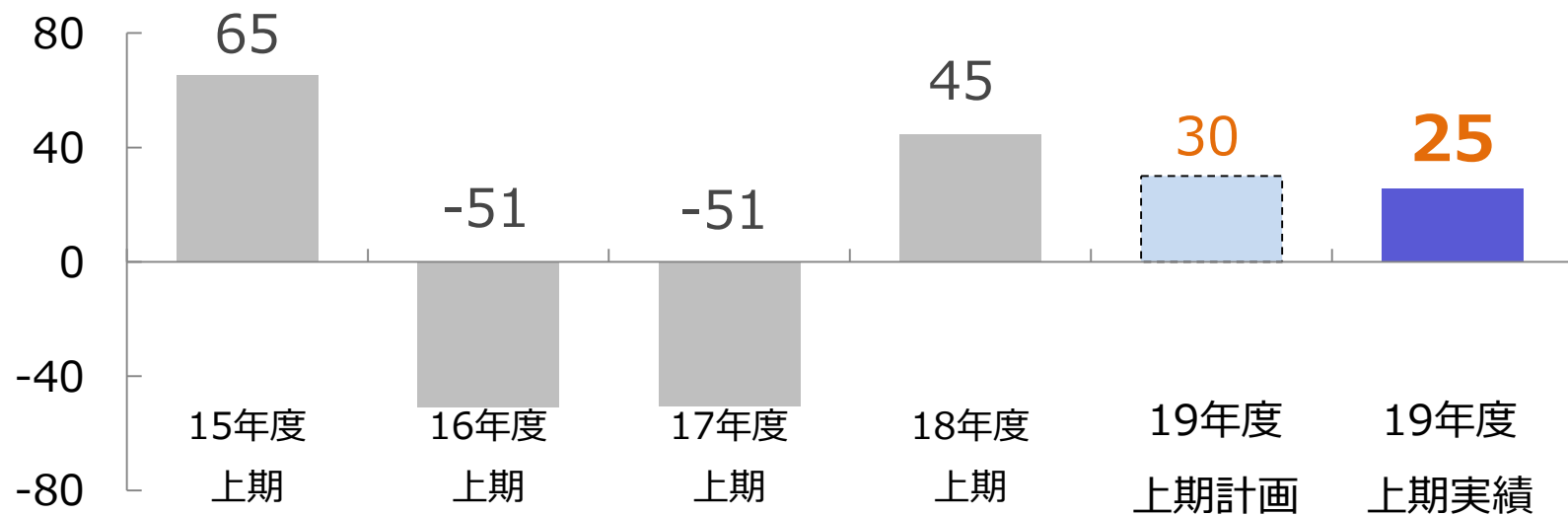
▲12億円

【2019年度上期】

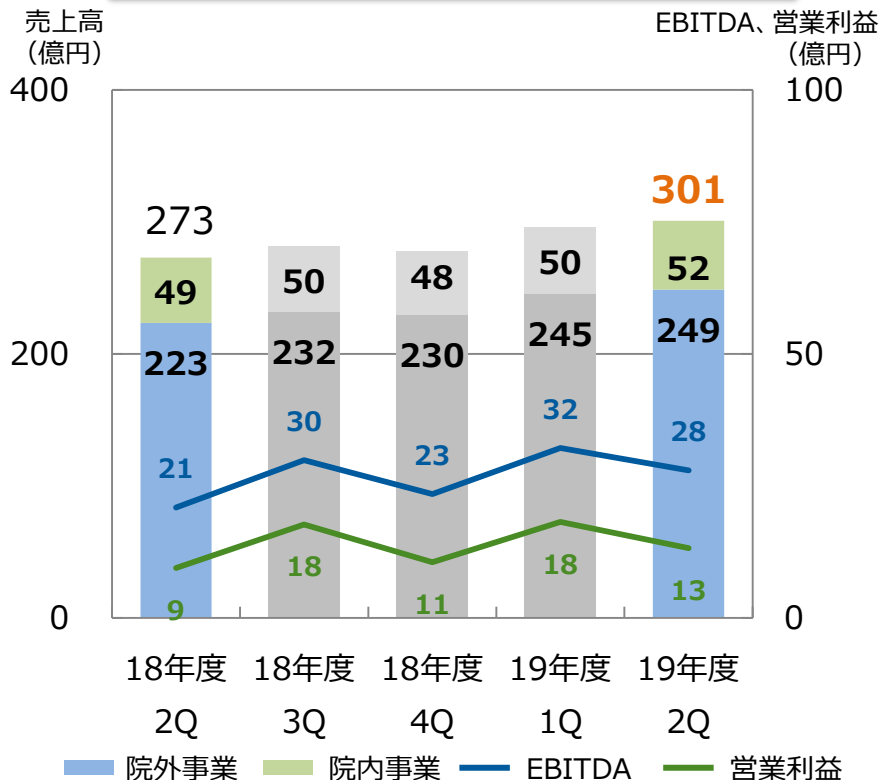
- 持分法による投資損失 ▲13億円
(BMGL : ▲12億円、平安保険グループとのJV : ▲1億円)

連結当期純損益 推移

(億円)



四半期推移



対前年同期比

	18年度 上期	19年度 上期	対前年 同期増減	
売上高	552	596	+44.6	+8.1%
院内	98	102	+4.1	+4.1%
院外	454	494	+40.5	+8.9%
EBITDA	45	60	+15.0	+33.3%
営業利益	24	31	+7.9	+33.4%

売上高

- テスト数：+6.2%
- 遺伝子関連検査の伸長
- 新規顧客獲得による増収

営業利益

- 売上増に伴う利益増
- 一方で減価償却費の増加（▲約7億円）、中国展開のための費用（▲約2億円）が発生

重点施策の進捗 CLT事業

売上

開業医

- 顧客数は順調に増加
 - ✓ ITを活用した付加価値サービスの提供が奏功
 - ✓ 新規サテライトラボの活用

院内

- 富士レジオとの共同提案を継続し、顧客数が増加

健診

- 新規顧客を順調に獲得

病院

- 遺伝子関連検査の伸長

営業利益

- AI※1／RPA※2活用及び業務の抜本的見直しによる合理化
⇒下期から本格的な寄与を見込む
- 集荷物流機能の分社化・効率化を推進
- 中国展開のための費用は計画通り

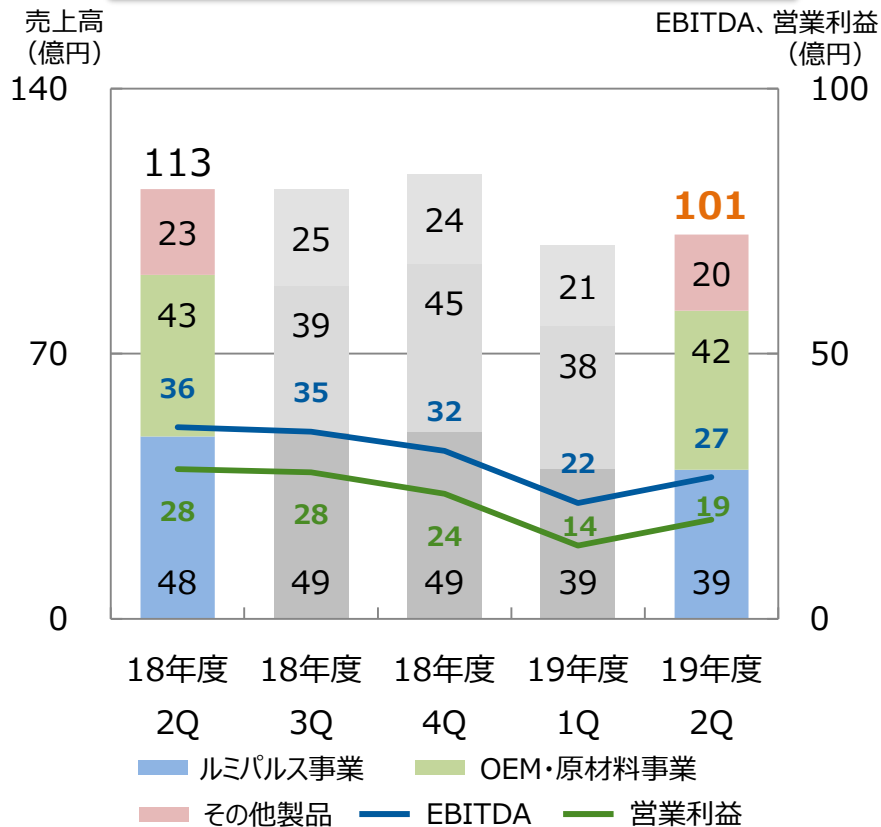
これまでの施策の効果が発現し、過去最高の売上高

- 数量増及び遺伝子関連検査の伸長による売上成長
- 価格影響は期初計画（▲1.5%）の範囲内

【今後の課題】

- 業務改善による合理化を強化
- 収益性の高い項目の拡販

四半期推移



対前年同期比

(億円)

	18年度 上期	19年度 上期	対前年 同期増減	
売上高	223	200	-23.0	-10.3%
ルミパルス	96	79	-17.3	-18.0%
国内	89	70	-19.5	-21.8%
海外	7	9	+2.2	+32.4%
OEM・原材料	80	80	+0.1	+0.1%
その他	47	41	-5.7	-12.2%
EBITDA	65	49	-16.0	-24.7%
営業利益	49	33	-16.6	-33.9%

売上高

- ルミパルス：国内(日赤事業以外)・海外ともに伸長
- OEM・原材料：堅調に推移
- 日赤事業の契約終了による減収

営業利益

- 日赤事業の契約終了による減益
- 大口顧客獲得に伴う先行費用

重点施策の進捗 IVD事業

売上

国内

ルミパルス事業

- 大型機設置の増加
- 新規項目の開発を加速
- 日赤事業の契約終了影響

海外

ルミパルス事業

- 欧州を中心に着実に成長
- 平安保険グループとのJVを通じた設置を進める

OEM・原材料事業

- 新規パートナーの拡充

営業利益

増益要因

- 国内ルミパルス事業における大型機設置の増加

減益要因

- 日赤事業の契約終了影響
- 大口顧客獲得への先行費用
- 欧米子会社におけるOEM事業強化のための先行投資を継続

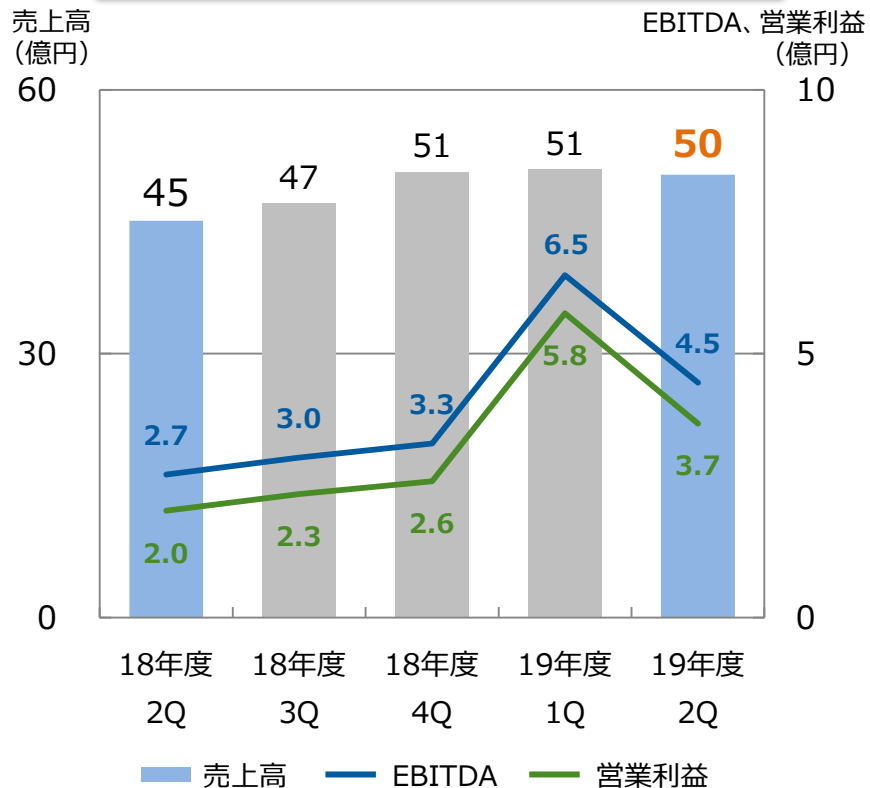
- 国内ルミパルス試薬(日赤事業以外)は伸長
 - ✓ グループシナジーを活用したルミパルスの設置推進
 - ✓ 新規項目の上市(TDM[※]、PGE-MUM、レニン・アルドステロン)
- 日赤事業の契約終了による影響は想定通り

【今後の課題】

- 国内外ルミパルスの更なる成長
- OEM事業の強化
⇒グローバル市場へのアクセス
- 薬事機能強化
- 日赤事業影響の早期回復

※ 血中薬物濃度 (Therapeutic Drug Monitoring)

四半期推移



対前年同期比

(億円)

	18年度 上期	19年度 上期	対前年 同期増減	
売上高	92	101	+9.4	+10.3%
EBITDA	6.1	10.9	+4.8	+79.1%
営業利益	4.8	9.4	+4.7	+98.5%

売上高

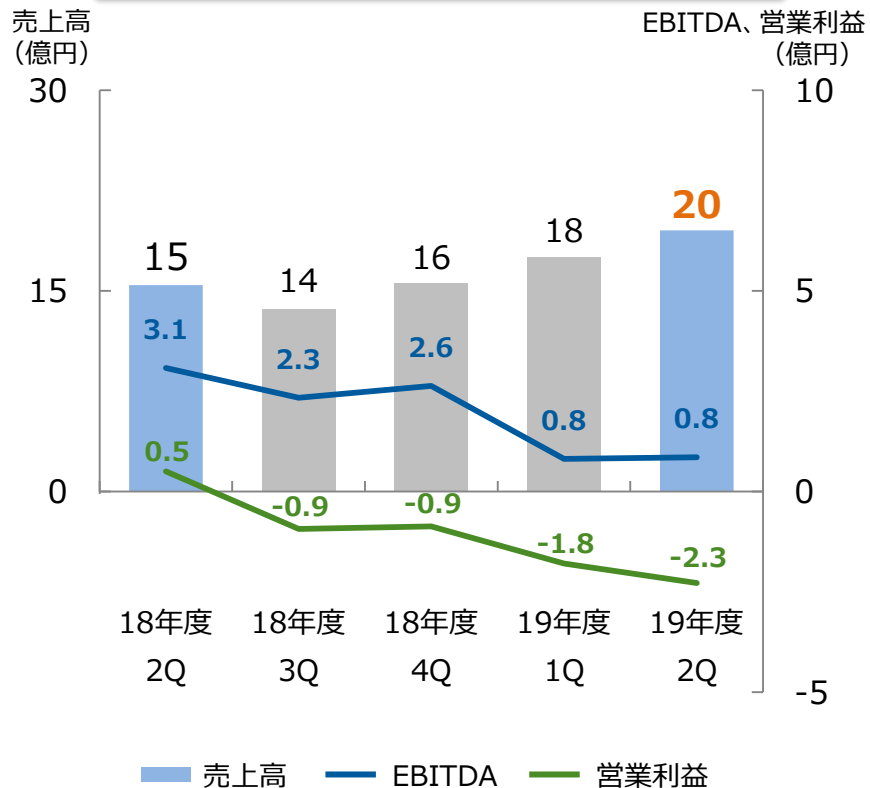
- 契約価格見直しによる増収
- 設備機器や消耗品等の販売が伸長
 - ✓ 全面受託化を推進
 - ✓ 中央材料室の機能全てを受託

営業利益

- 契約価格見直しによる増益

日の出センターの稼働を開始

四半期推移



対前年同期比

	18年度 上期	19年度 上期	対前年 同期増減	
売上高	30	37	+7.1	+23.8%
EBITDA	6.1	1.7	-4.5	-72.9%
営業利益	1.3	-4.1	-5.4	-

売上高

- セルメスタの売上が寄与
対前年影響額：+約9億円
- 地域医療センターの連結除外による減収
対前年影響額：▲約5億円
- 在宅・福祉用具事業の伸長

各事業の進捗

- 食品・環境・化粧品検査事業
みらかヴィータスが検査受託を開始

主要KPI

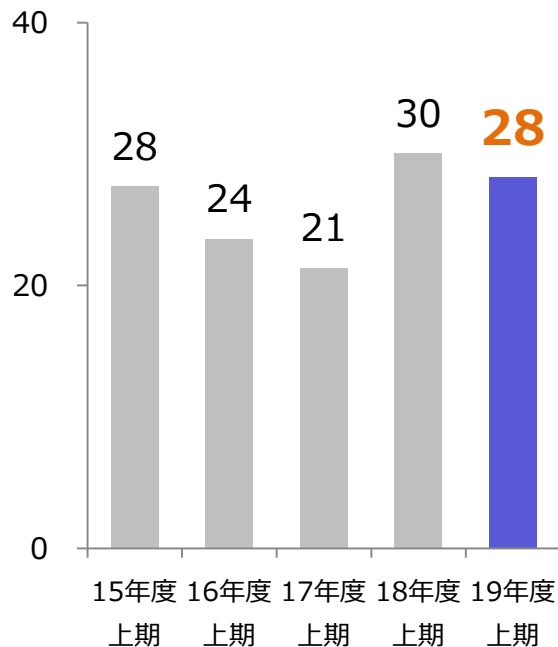
			2019年度上期	2018年度上期	
CLT	院内検査受託施設 純増減数		+29	+18	
	開業医顧客 純増減数		+484	+357	
IVD	ルミパルス	国内 [※]	設置台数	81	56
			純増減数	-3	+5
	海外	設置台数	61	52	
		純増減数	+38	+41	
グループ内取引純増減金額（億円）			+2.6	+1.8	

※ グループ内（CLT院内含む）・グループ外設置の総数

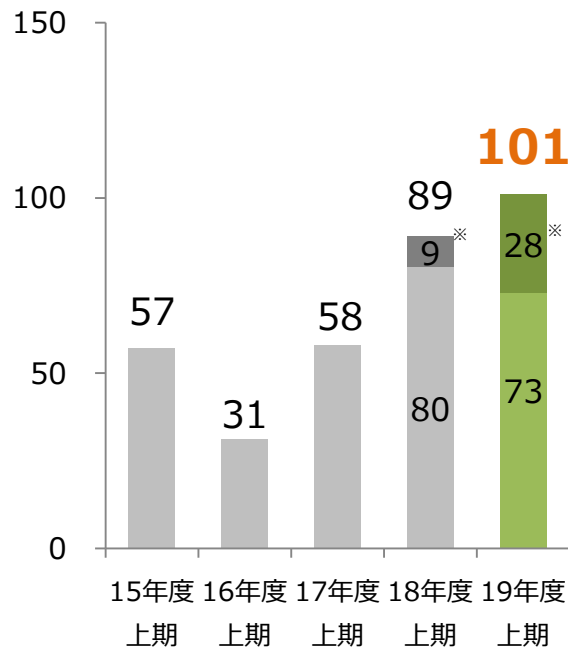
研究開発費、設備投資額、減価償却費の推移（海外CLTを除く）

(億円)

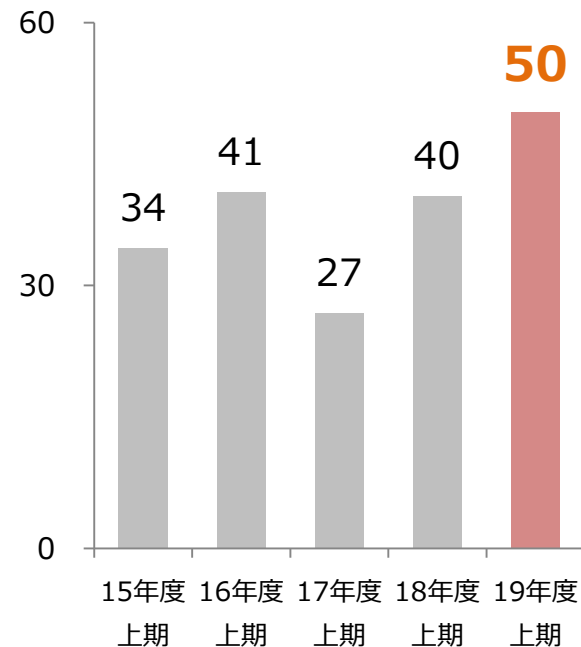
研究開発費



設備投資額



減価償却費

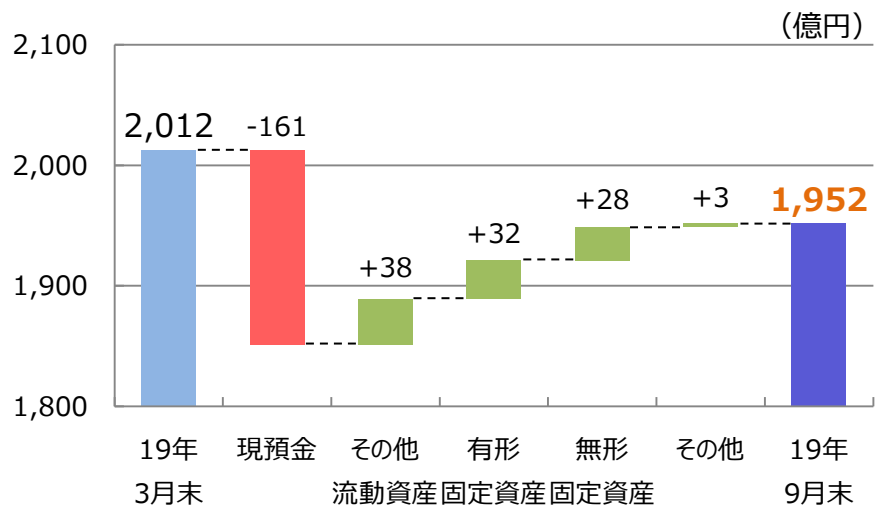


※ 新ラボ関連投資

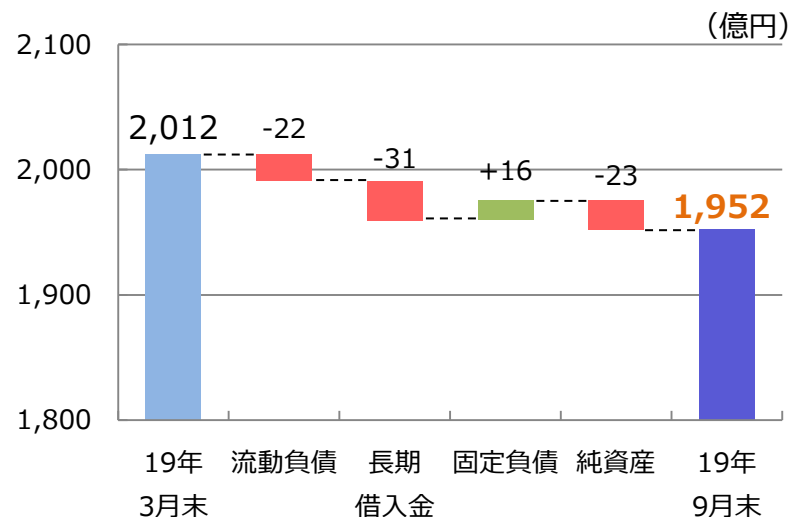
連結貸借対照表

- 自己資本比率：56.0%（2019年3月末）→56.6%（2019年9月末）

資産の部



負債・純資産の部



連結キャッシュフロー

(億円)

	2018年度 上期	2019年度 上期	増減	
税引前当期純利益	58	40	-18	
減価償却費	40	50	+10	
のれん償却費	5	5	+0	
持分法による投資損益	12	13	+1	
法人税等の支払額	17	-40	-57	
その他	-24	-19	+5	
営業キャッシュフロー	108	49	-59	法人税等の支払いにより減少
投資キャッシュフロー	-191	-126	65	成長へ向けた先行投資を継続
フリーキャッシュフロー	-83	-77	6	前年同期並み
財務キャッシュフロー	261	-88	-349	18年度は借入を実施、19年度は一部を返済
現金同等物換算差額	3	-7	-10	
増減	180	-172	-353	
現金同等物期末残高	385	176	-209	現金同等物は、前年同期より209億円の減少

BMGLについて

BMGL設立

(みらか60%、バイラー医科大学40%)

2015

バイラー医科大学

- ブランド力
- 検査精度・品質
- 研究開発力

+

みらかグループ

- 商業ラボのノウハウ

- バイラー医科大学の最先端研究成果を最優先で商業化する権利を保有
- 堅実な成長を志向

バイラー医科大学について

- ヒトゲノム計画(Human Genome Project)において主導的な役割
- 分子・人類遺伝学 (Molecular & Human Genetics) において全米トップクラスの実績

競争環境の変化

2019

- テクノロジーの進歩を背景に急速な市場成長
 - ✓ リキッドバイオプシー、プレジジョンメディシン
- ベンチャー企業の参入激化
 - ✓ 競合は資本市場から資金調達を行い、積極的な投資を実施

IPOの準備を開始

IPO前の第3者からの資金調達も視野に入れる

進捗と見通し

- 8月：深圳にJVラボを開設し、持分連結を開始
- 9月：新たに検査ラボを開設（JVラボを含め、5か所のラボを開設済み）
- 2019年度中：さらに検査ラボを4か所開設予定 ⇒ 年度末には合計9か所

平安保険グループとの三位一体モデル

健診
受診者
● 従業員
● 平安保険
加入者
等



ポイント

- 画像センター・健診クリニックと同地域内に検査ラボを開設
- 平安保険グループのリソースを活用したラボ展開

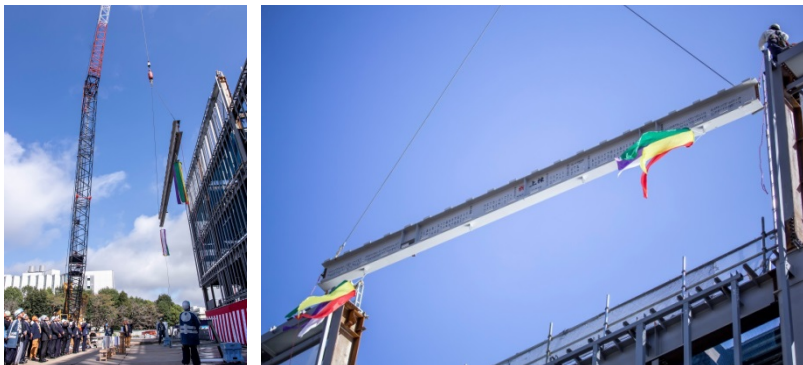
新セントラルラボの進捗と資金調達

◆ 建設は計画通り進行中

2019年 2月 着工

2019年 10月 上棟式

2020年 6月 竣工（予定）



ソーシャルファイナンスによる調達

機器・システム 250億円

200億円

ソーシャルボンドによる調達

（10月25日発行）

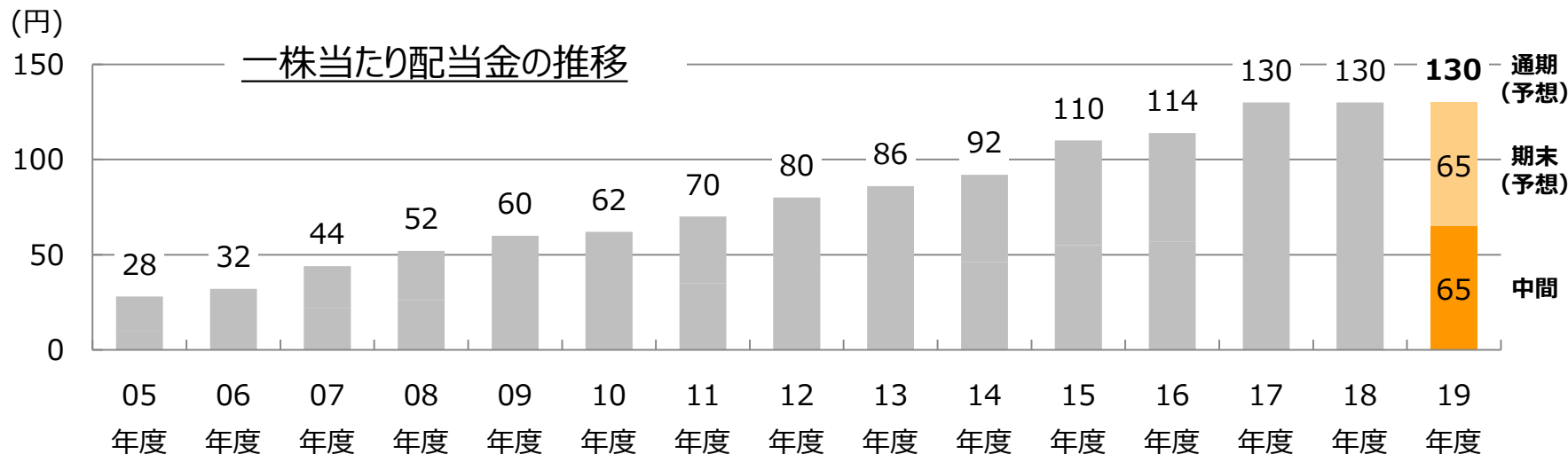
50億円

ソーシャルローンにより調達予定

（2019年度中を予定）

配当について

- 株主還元基本方針に変更はない
- 2019年度は130円の配当を継続
✓ 中間：65円、期末：65円（予想）



補足資料

セグメント別情報 (IVD)

(億円)

	18年度上期	19年度上期	対前年同期増減	
臨床検査薬事業 (地域別)	223	200	- 23.0	-10.3%
海外	118	115	- 2.8	-2.4%
北米	57	57	- 0.4	-0.8%
欧州	47	48	+ 0.9	+1.9%
アジア・パシフィック (日本除く)	13	10	- 3.2	-24.0%
国内	105	85	- 20.2	-19.2%

研究開発費、設備投資額、減価償却費

(百万円)

	18年度上期	19年度上期	対前年同期増減	
研究開発費	3,002	2,829	-173	-5.8%
CLT	176	159	-17	-9.4%
IVD	2,439	2,157	-282	-11.6%
SR	0	0	-	-
ENB	0	0	-	-
MHD等	386	512	+126	+32.6%
設備投資額	8,912 ※	10,092 ※	+1,180	+13.2%
CLT	6,057	7,190	+1,133	+18.7%
IVD	1,300	1,095	-205	-15.8%
SR	79	694	+615	+771.2%
ENB	560	845	+286	+51.0%
MHD等	914	267	-648	-70.8%
減価償却費	4,023	4,979	+957	+23.8%
CLT	2,016	2,731	+715	+35.5%
IVD	1,278	1,369	+91	+7.1%
SR	110	124	+15	+13.2%
ENB	402	466	+64	+15.9%
MHD等	216	287	+72	+33.1%

※ 新ラボ関連投資を含む（18年度上期：約9億円、19年度上期：約28億円）

従業員数

(人)

	19年 3月末		19年 9月末		19年3月末からの増減	
	従業員	臨時 雇用者	従業員	臨時 雇用者	従業員	臨時 雇用者
総従業員数	5,957	6,452	5,959	6,555	+2	+ 103
CLT	2,986	3,115	2,988	3,104	+2	- 11
IVD	1,116	121	1,103	115	-13	- 6
SR	1,181	3,118	1,171	3,149	-10	+ 31
ENB	304	73	328	137	+24	+ 64
MHD等	370	25	369	50	-1	+ 25

【連絡先】

みらかホールディングス株式会社

コーポレートコミュニケーション本部 IR/SR部 TEL : 03-5909-3337

将来見通しに関する注意事項：

資料中の業績見通し数値は、現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣による判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づき作成されたものです。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら業績見通しとは異なる結果となり得る事をご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢の悪化、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、新製品上市の遅延、競合会社の製品戦略による圧力、当社既存製品の販売力の低下、販売中止、等がありますが、これらに限定されるものではありません。